

委員会行政視察報告書

平成 25 年 10 月 24 日提出

井原市議会議長 宮地俊則 様

報告者

市民福祉委員会

坊野 公治

期 間	平成 2 5 年 1 0 月 9 日（水）～平成 2 5 年 1 0 月 1 1 日（金）
出張先及び 担当職員 職名・氏名	千葉県市原市 議会事務局 渡辺信一議事課長他 1 名、 公園緑地課 潤間課長他 3 名、防災課 實籾課長他 1 名 静岡県袋井市 議会 戸塚文彦議長、久永豊彦事務局長、 健康づくり推進課 寺田課長他 2 名 静岡県掛川市 環境産業委員会 草賀章吉委員長他事務局 1 名、 環境政策課 志村課長他 2 名
出張者氏名	坊野公治、荒木謙二、河合謙治、上野安是、佐藤 豊、井口 勇、 平川貴章（議会事務局）
調査項目	防災機能公園としての総合公園及び備蓄倉庫について 健康チャレンジ!!すまいる運動「健康マイレージ制度」について 新ごみ減量大作戦について
○防災機能公園としての総合公園及び備蓄倉庫について 【千葉県市原市】	
災害発生時の避難場所として公園整備を行っている。芝生公園を復旧部隊のベースキャン	
プに、軽スポーツ広場をヘリポートになど災害発生時に対応した作りとなっている。また、	
緊急時にかまどや、トイレになるベンチも備え付けてある。近隣に避難場所としての勤労	
会館、医療・救護活動拠点としての保健センターを備えている。	
備蓄に関しては各支所、学校を備蓄庫としている。公園はあくまで一時的な避難場所と	
しての位置づけてあり、備蓄を備えた学校や公共施設を避難所としている。	
井原市においても、災害発生時の受け入れ態勢として、庁舎、消防署、運動公園やリフ	
レッシュ公園などの位置づけと各施設の連携を考えておく必要がある。	

1. 報告書は、視察・研修終了後 2 週間以内に提出してください。
2. スペースが足りない場合は、別途報告資料を添付してください。

○健康チャレンジ！！すまいる運動「健康マイレージ制度」について 【静岡県袋井市】

日本一健康文化都市宣言のもと、健康づくりの実践・記録をポイント化し、公共施設の利用券や民間の登録サービス券などと交換したり、幼稚園・学校へのポイントを寄付などのシステムにより健康増進をおこなっている。

自己申告制のポイント制度によって市民のやる気を引き出し、付加価値を付けて市民の健康増進に対するやる気を引き出している。お金もかからないので、取り組むべきと考える。

○新ごみ減量大作戦について 【静岡県掛川市】

14%のごみ減量を目標に、ごみ分別説明会の開催、クリーン推進員の配置、直接搬入ごみの指導、剪定枝等の再資源化、生ごみパッキンの利用促進、古紙回収コンテナの設置などを行い、可燃ごみの減量に努めている。4R（リデュース、リユース、リサイクル、リフューズ）を推進している。マイバック持参率 96%。

民間の力を利用して、可燃ごみになる剪定枝や古紙、バック、靴などを再利用する方法は参考になる。

委員会行政視察報告書

平成25年10月21日提出

井原市議会議長 宮地俊則 様

報告者

市民福祉委員会 荒木 謙 二

期 間	平成25年10月9日（水）～平成25年10月11日（金）
出張先及び 担当職員 職名・氏名	千葉県市原市 議会事務局 渡辺信一議事課長他1名、 公園緑地課 潤間課長他3名、防災課 實籾課長他1名 静岡県袋井市 議会 戸塚文彦議長、久永豊彦事務局長、 健康づくり推進課 寺田課長他2名 静岡県掛川市 環境産業委員会 草賀章吉委員長他事務局1名、 環境政策課 志村課長他2名
出張者氏名	坊野公治、荒木謙二、河合謙治、上野安是、佐藤 豊、井口 勇、 平川貴章（議会事務局）
調査項目	防災機能公園としての総合公園及び備蓄倉庫について 健康チャレンジ!!すまいる運動「健康マイレージ制度」について 新ごみ減量大作戦について
別紙のとおり	

- 1. 報告書は、視察・研修終了後2週間以内に提出してください。
- 2. スペースが足りない場合は、別途報告資料を添付してください。

① 防災機能公園としての総合公園及び備蓄倉庫について

(千葉県市原市)

平成 25 年 10 月 9 日

市原市総合公園（上総更科公園）は「五井駅東側整備事業」「市原市都市交流拠点整備基本計画」に基づき整備された、都市交流拠点であると同時に災害時の救援活動拠点としての防災機能を有した施設であり、整備期間として平成 20 年度より平成 24 年度とし、平成 21 年度から 3 期にまたがり本年度 4 月 1 日開設した施設であります。

面積は、9,9haあり、1,5haの修景池は災害時には、水源として使用され、生活用水等にも使用でき、軽スポーツ広場はヘリポート、芝生広場は、復旧部隊のベースキャンプ、公園センターは連絡拠点、駐車場は可燃物置場、イベント広場は物資の搬入搬出、物資の集積スペース、四季の路は8mあり、緊急道路としても使用できる。

隣接地には、避難所として使用される、勤労会館、また、急病センター、保健センターもあり、医療、救護の活動拠点と連携され、一時的な避難場所としては、機能が充実していると考えられる。

また、施設内には配線不要の LED ソーラー照明、10 基、災害時には、かまど となる、かまどベンチ 12 基、トイレベンチ 7 基、防災東屋 1 基等、防災井戸、防災備蓄倉庫もあり、1 万人 の一時的避難民、帰宅難民を受け入れることができる。

当公園の備蓄倉庫には、1万人の3日分の食料、水が備蓄されている。他に備蓄庫として46箇所設け、4万3千人分の3日分の食料、水が配備されている。

南海トラフ地震においても液状化、津波なども比較的影響が少ないとの想定であり、その中においても、このような防災公園を整備されている市原市の防災意識は研究すべきであり、井原市においても一時的避難場所への LED ソーラー照明、かまどベンチ、トイレベンチの設置は不可欠であると考えられる。

③新ごみ減量大作戦について	(静岡県掛川市)
平成 25 年 10 月 11 日	
掛川市は 3 つの日本一のまちづくりを目指しており、その中で、環境日本一のまちづくり に取組まれ、風力発電は現在 10 基、また、12 基の増設を予定され、太陽光発電の設置 は、昨年度末で、戸建住宅割合は 8.4%、3 年後には 20%の設置率（年 800 軒）を目標に 掲げられ、創エネ、省エネに勤められている。 また、青少年健全育成事業として「全市一斉環境美化運動」や海岸清掃など市民参加の 美化ボランティア活動を展開され、美化ボランティア登録団体数は人口比率あたり、全国 2 位（99 団体）で全国 1 位（125 団体）を目指されている。 一日当りのごみの排出量は 10 万人以上の都市では 22 年度より 1 位を続けられ、年毎に 排出量は減少している。その背景には、「新ごみ減量大作戦」の実施であると考えられる。 「新ごみ減量大作戦」は合併を機に 2 つの焼却場があることの負担と閉鎖時期の切迫で 処理能力の限度まで燃えるごみの減量に努めなければならないことで“ごみ減量大作戦” の実施の必要性があり、目標の設定を 3 段階に分け、基準実績から 7%、12%、14% 減量とし、平成 22 年度には目標設定を達成された。ただ、減量率は減少傾向にあり、 原因としては、飲食店、コンビニ、大型店舗の進出、生活パターンの変化が考えられる。 推進施策の実施状況はシンボルマーク・キャッチフレーズの公募、のぼり旗の設置、 毎年約 600 人の各地区 1 人以上のクリーン推進員設置、研修会、搬入ごみの分別指導、 事業所への直接指導、再資源化に向けた取組み、ゴミ袋の記名制、生ごみパックンの 講習会、古紙回収コンテナの設置（市内 32 箇所）等と多くの施策を実施されている。 また、食用油リサイクル事業の展開によって BDF に精製し、使用することによって、 水質汚濁防止、ごみの減量、排ガスのクリーン化、地球温暖化防止と環境にやさしい取組 みを実施されている。 そして、4R（Reduce）ごみを出さない、ごみにしない生活（Reuse）繰り返し使う！ （Recycle）再資源に戻す！（Refuse）ごみになりそうなものは手に入れない！を推進し、 今後は、1 市 2 制度の分別方法の統一、ごみ処理有料化に取組まれる予定とのことです。 井原市においてもごみ処理については環境の面からも重要であり、一人ひとりの意識で ごみの減量化は可能であると考えられ、啓発活動に努めていかなければならないと考え ます。	

委員会行政視察報告書

平成 25 年 10 月 21 日提出

井原市議会議長 宮地俊則 様

報告者

市民福祉委員会

河合謙治

期 間	平成25年10月9日(水)～平成25年10月11日(金)
出張先及び 担当職員 職名・氏名	千葉県市原市 議会事務局 渡辺信一議事課長他1名、 公園緑地課 潤間課長他3名、防災課 實叡課長他1名 静岡県袋井市 議会 戸塚文彦議長、久永豊彦事務局長、 健康づくり推進課 寺田課長他2名 静岡県掛川市 環境産業委員会 草賀章古委員長他事務局1名、 環境政策課 志村課長他2名
出張者氏名	坊野公治、荒木謙二、河合謙治、上野安是、佐藤 豊、井口 勇、 平川貴章(議会事務局)
調査項目	防災機能公園としての総合公園及び備蓄倉庫について 健康チャレンジ!!すまいる運動「健康マイレージ制度」について 新ごみ減量大作戦について
別紙のとおり	

1. 報告書は、視察・研修終了後2週間以内に提出してください。
2. スペースが足りない場合は、別途報告資料を添付してください。

市民福祉委員会行政視察報告書

研修内容

防災機能公園としての総合公園及び備蓄倉庫について

1. 市原市の概要

面積368平方キロメートル、人口281,642人を有し、財政としては、総額861億9,000万円(25年度当初予算)、議員定数36人(現34人)という市制50周年を迎える千葉県の中中部で東京湾に面した広域都市です。

2. 防災機能公園としての総合公園について

約1万人収容可能な総合公園で、指定管理として、水道・電気代込で約6,000万円/年の管理費用が発生しているそうです。

公園内には、クリーンエネルギーのソーラー照明灯(別紙参照)、防災かまどベンチ(別紙参照)、防災トイレベンチ(別紙参照)、防災四阿(別紙参照)などがあり、他にも防災用水源、芝生広場、勤労会館など災害時にも有効活用できる場所を多く有している公園です。

3. 備蓄倉庫について

市内に49ヶ所の備蓄箇所があり、そこには、食事17万食、水13、4万本、炊飯器20台、毛布1,000枚を有しており、小中学校69校中27校にも別の備蓄をしているそうです。

災害の際には、最大4万3千人の避難があるものと想定されているそうです。

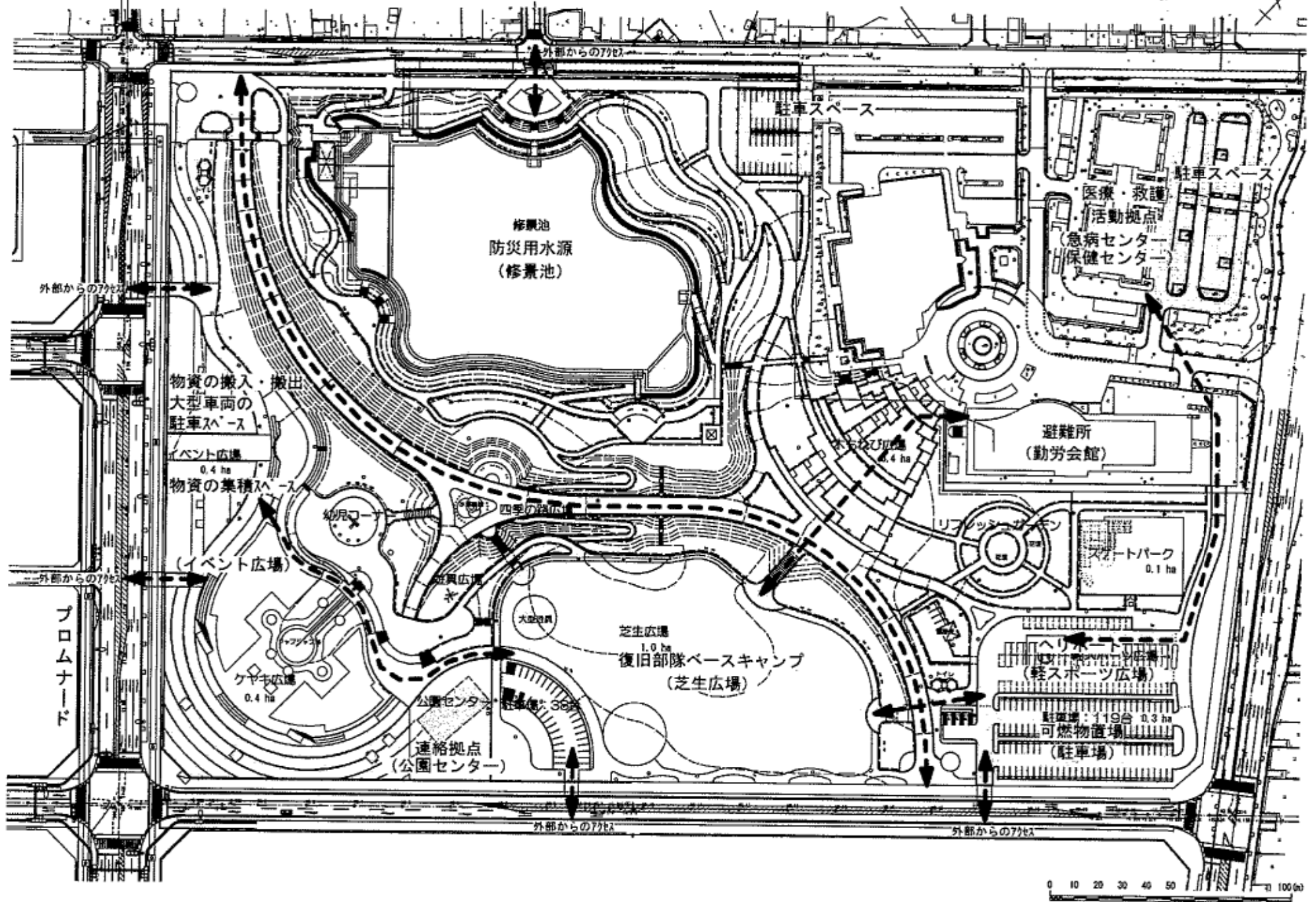
防災訓練についても、毎年10ヶ所の支所単位で実施されているそうです。

4. まとめ

当市とは比べものにならないくらいの危機管理体制ができており、防災訓練についても、全然規模が違ふことを実感しました。

当市においても、見習わなければならない点は、今後実施しなくてはいけないと感じました。

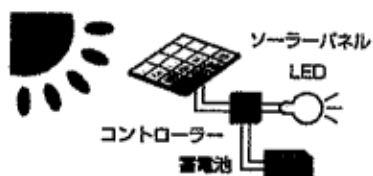
(仮称)市原市総合公園整備事業 防災拠点計画図



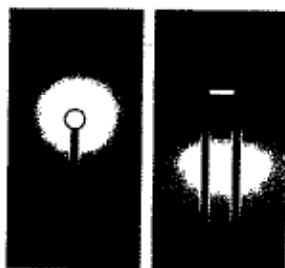


クリーンエネルギーのソーラー照明灯

スマートでモダンなイメージのソーラー照明灯です。高効率ソーラーモジュールとLEDランプの組合わせにより、省エネルギーで長寿命。山間部など電源の確保が難しい地域などで活躍します。

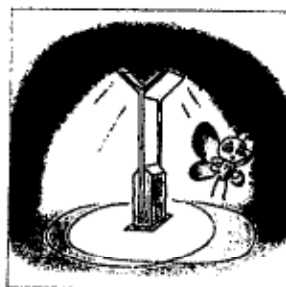


ソーラーモジュール：単結晶Si
蓄電装置：鉛蓄電池 12V38Ah
照明装置：LED



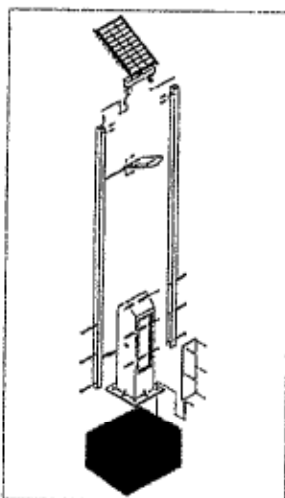
光害（ひかりがい）対策

照明対象範囲の外へ漏れる光は、エネルギーの消費や視認性、安全性の低下をはじめ、星のない夜空の原因と考えられ、環境省でもガイドラインを策定して対策に乗り出しています。ナカムラの灯具は上方へ漏れる光がほとんどなく、安全性や環境への影響を最小限に抑えています。



虫を寄せ付けない光

白色LEDの発光波長は、一部のガなどを除いてほとんどの虫にとって目に見えないという特徴があります。このために、虫が寄ってきて環境を害するようなことが起こりにくくなっています。



配線工事不要で施工が簡単

単独で充電、発光するソーラー照明灯は電気配線工事が必要ありません。さらに設置現場にて簡単に組立てられる「現場ノックダウン工法」を採用することにより、クレーンなどの重機を必要とせず、施工時間も大幅に節約できます。

●運賃・取付費・基礎工事は別途。●木部は年月の経過とともに退色します。使用状況により割れ、ささくれ等が生じる場合があります。

防災かまとベンチ

●普段は憩いの場所として使用するベンチが、災害時にはかまどに変身して温かい食物や暖を提供します。



●座面を取り外した後は簡易ベンチ・かまどとして使用できます。



●かまど部分は2つの五徳を備え、45リットルの寸胴鍋を2つ置くことができます。
●45リットルの寸胴鍋2つで約300人分の汁物の調理が可能です。
●薪を使用した実験によると、1時間30分程度で45リットルの水を煮沸させることができます。



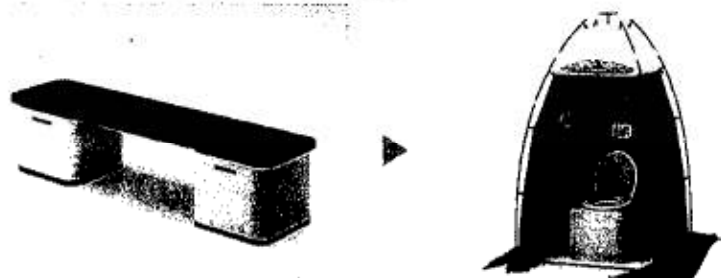
●付属の専用レンチでビスを2箇所ゆるめて外す。

●補助脚を引き出します。

●風防・炭皿・五徳は収納されています。

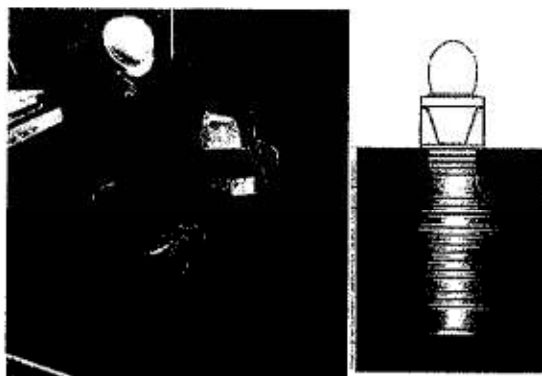
防災トイレベンチ

●防災トイレベンチは、簡単な組み立てとテントの設置により使用できる災害用トイレです。



●防災トイレベンチ

●洋式便座タイプのトイレです。



●付属の専用レンチでビスをゆるめ上台を外します。

●裏向きに付いている便座部を外し、中のマンホール蓋を開けて再度取り付けます。

●仮設トイレに変形。テントを設置し使用できます。

●便槽容量 580リットル ●便座サイズ $\phi 870 \times H1450$

●このトイレは大人が1日100人使用した場合、約4日～5日使用できます。

※大人の平均排泄量	大便	1日1回 (130g)
	小便	1日6回 (計 1200cc)

●長期間使用する場合は汚物の汲み取りを行います。

◆防災四阿



軒下の収納にテントが入っています。
柱の収納にハンドル・鍵が入っています。



この四阿にはソーラーパネルが設置されており、写真のように照明がつけます。
暗くなると(充電圧低下)自動点灯し、6時間で自動消灯します。
※明るくなると自動消灯するなど各種設定があります。



柱4本すべてが収納になっています。
ブルーシートやスコップなど
防災用品の収納に使用できます。

研修内容

健康チャレンジ！！すまいる運動「健康マイレージ制度」について

1. 袋井市の概要

静岡県西部に位置し、東は掛川市に、西は磐田市に、北は周智郡森町に接しています。

面積は、108平方キロメートル、人口86,859人を有し、県内35市町中、5番目の増加率です。また、出生率は、10.3人（人口千人当たり）で、県平均を約1.8人上回っていて、高齢化率は、20.0%と4.5ポイント県を下回っている。

2. 健康マイレージ制度について

平成19年度から実施（健康チャレンジ！！すまいる運動は、平成18年度から実施）。市民一人ひとりの豊かな人生と健康長寿の実現のためには、市民一人ひとりが健康的な生活習慣を身につけることが重要であり、健康づくりをしやすい機運の醸成、健康づくりの動機付け支援と健康的な生活習慣の定着を促すことを目的に、健康づくりが人と人、人と社会をつなぎ、人やまちを幸せにすることを理念として健康づくりを市民運動化、文化とする仕組みとして実施している。

健康チャレンジ！！すまいる運動のキャンペーン期間（7/1～11/30）において、すまいるカード（専用はがき）や携帯電話（要登録）を使用して市に健康づくりの実践記録を報告すると、その実践状況に応じてポイントが貯まり、貯めたポイントは幼稚園や小中学校等へのポイント寄付のほか、公共施設利用券や民間の登録サービス券とも交換できる制度です。

3. エッセンス点について

1. 自治会表彰、私の健康法、我が社の健康づくりなどの表彰を実施
2. 幼稚園や学校等へのポイント寄付制度の導入
3. 携帯電話のインターネット・メール機能を活用した「e-すまいる」の導入
4. ポイント交換メニューに民間のサービス券を登録制で追加
5. 食育推進と家庭の食卓改善を意図したすまいる手帳の改良
6. ポイント交換メニューに「野菜いっぱいマーク表示店」で利用できる「野菜いっぱい！！共通お食事券」の導入
7. 携帯電話やパソコン「e-すまいる」を活用し、健康情報提供サービスを実施

4. まとめ

市民全体が十分に理解して、協力していかないと実施できない制度だと感じました。約6年かけて、現在に至っていますが、かなりの努力をされたもので、大変だったと思います。

ちよつと
いいね!

平成24年度の「すまいるポイント」活用事例を紹介します



袋井ハロー保育園
園児用菜園の整備費として活用しました!



山崎站構内
バラバルーンなどの購入費として活用しました!

ポイントを活用しよう
「すまいるポイント」は、市が指定した保育園・幼稚園・学校などへ寄付できる点が、民間の福祉サービス事業者と連携して活用されています。

ポイント交換メニューに「すまいるポイント」が追加されました。野菜の収穫や、お花の植え付け、お花の観察など、子どもたちの成長を応援する活動に活用されています。詳しくは、参加ガイドまたは、ホームページをご覧ください。



はじめよう! 健康チャレンジ!!

健康づくりが、人と人・人と社会をつなぎ
人やまちを幸せにします



袋井市は、「日本一健康文化都市」の実現を目指し、健康的な生活習慣の定着を図るため、平成19年度から「健康チャレンジ」すまいる運動「健康マイレージ制度」を実施。今年で7年目を迎えます。

平成25年度は、ポイント交換メニューに「野菜いっぱいマーク表示店」(取扱店)で利用できる「野菜いっぱい!」共通お食事券が追加されたほか、健康に役立つ情報が携帯電話やパソコンに配信されるサービスが加わり、さらに魅力的になりました。

◎健康づくり政策課健康企画係 ☎44-3138

「健康マイレージ制度」って?
健康マイレージ制度とは、参加者が健康づくりの取り組み(運動)を通して、健康マイレージカードに記録された歩数や運動時間などを、市が指定した施設や学校などに寄付したり、公共施設の利用券や健康サービス券と交換したりできます。

対象者 市内在住、在勤、在学の子15歳以上の方(中学生は除く) 1人1人1枚の健康マイレージカードを1枚1枚発行します。

対象期間 7月1日(月)～11月30日(土) (10月15日、16日、17日は中学生は、6月15日(土)～7月10日(日)の30日間)

どうやって参加するの?
健康マイレージ制度への参加方法は、携帯電話を利用する「e-zumairu」または、市からのメールを受信し、専用サイトにアクセスして、あなたの健康づくりの実績を入力・登録してください(※過去15日間の記録まで、入力・更新可能)。

「e-zumairu」は、携帯電話のメール機能を利用して、健康づくりの記録を入力する簡単なシステムです。ご利用には、初期登録が必要となります。

本年度は、新しく健康情報発信サービスを開始し、定期的に健康に役立つ情報をメールで発信します。

④ ポイントを使おう

「e-zumairu」 申請も携帯電話からOK!
申請期間内であれば、いつでも「e-zumairu」にて申請できます。

「すまいるカード」 申請書・ファクス・メールで申請を
「すまいるカード」に添付されている「ポイント寄付・交換申請書」を使って郵送で申請できるほか、ファクスやEメールでも申請できます(様式は自由)。ファクスやEメールでの申請は、タイトルを「ポイント寄付・交換申請書」とし、次の事項を必ず明記してください。

記載必要事項 ①ポイント保有者の住所・氏名・電話番号・生年月日・お住まいの自治会 ②ポイント総数(不明な場合は、お問い合わせください) ③ポイント寄付先団体番号と寄付するポイント数(寄附の場合) ④交換を希望するサービス券などの名称と交換枚数(各種サービス券と交換の場合)

申請書は、市ホームページからもダウンロードできます。

申請先・交換窓口の場所 市役所2階健康づくり政策課 FAX44-3117 E: kenkoudokuri@city.fukuroi.shizuoka.jp

申請受付・交換窓口の開館時間 8:30～17:15(土・日曜日、祝日、年末年始を除く)

③ ポイントがたまる

「e-zumairu」 ポイントは自動計算 / 画面も携帯で
携帯電話「e-zumairu」で入力・登録していただいた健康づくりの実績状況に応じて、ポイントが貯まります。

「e-zumairu」なら、登録特典として50ポイント進呈
ポイント数は、携帯電話の画面に表示されます(自動計算)。

「すまいるカード」 ポイントは市で管理します
提出された「すまいるカード」に記録されている健康づくりの実績状況に応じて、ポイントが貯まります(ポイント数は、市で管理します)。

ポイントの申請期限は
平成26年1月31日(金)までです!
ポイントがあれば、期間内なら何回でも継続申請できますが、申請期限を過ぎたポイントはすべて無効となります。また、ポイント寄付の場合、倍率へのポイントの換算はできません。

② 記録しよう

「e-zumairu」 メールを受信して実績状況を入力
市からのメールを受信し、専用サイトにアクセスして、あなたの健康づくりの実績状況を入力・登録してください(※過去15日間の記録まで、入力・更新可能)。

「すまいるカード」 カードに記録・カードを提出
カードに記録
掲げた取り組みができた日の欄には、実績状況により「○」か「□」を、ウォーキングの記録欄には、歩数または、歩行時間を記入してください。

カードの提出
1か月の実績状況を記録した「すまいるカード」を、市へ提出してください。

提出方法 ①郵便ポストへそのまま投函(切手不要) ②市役所、支所、袋井・浅羽保健センター、月見の里など指定された専用の提出箱への投函

提出期限 取り組んだ月の翌月10日まで
提出期限を過ぎても提出も可能ですが、最終の提出期限は、平成26年1月31日(金)までとなります。

① 参加しよう

参加方法 1 「携帯電話(e-zumairu)」で参加する
登録する(初回のみ)
①登録は、kenkoudokuri@city.fukuroi.shizuoka.jpに、タイトルを「すまいる」として送信してください(本文は入力不要)。

②二次元コード対応の携帯電話をお持ちの方は、その二次元コードをご利用ください。

③メール送付後、数日以内に、市から「e-zumairu登録のお願い」というメールが送付されます。本文に記載されているURLから登録サイトへアクセスし、利用登録と目標を入力してください。登録完了のメールが届けば、手続き完了です。

参加方法 2 「すまいるカード」で参加する
目標の設定
「すまいるカード」に、目標を記入してください。
「すまいるカード」や「e-zumairu利用ガイド」は、6月15日(土)から、公民館などの市内公共施設で入手いただけます。

④ 各種サービス券・ポイント寄付の状況について（平成24年度）

1 各種サービス券の交換枚数

（単位：枚）

利用券の種類	H24年度	H23年度	H22年度
和の湯 入館割引券〈500円/枚〉	20	13	10
炭焼きレストランさわやかのお食事券〈500円/枚〉	150	128	107
パティオ商品券〈500円/枚〉	29	17	16
とれたて食楽部の商品券〈500円/枚〉	46	48	32
和膳洋菜 みすとらるのお食事券〈500円/枚〉	7	8	4
（協）袋井商店連名のお買い物券〈500円/枚〉	3	-	2
花豊のフラワーチケット〈500円/枚〉	4	-	4
クオカード〈500円/枚〉	114	69	67
図書カード〈500円/枚〉	89	80	72
エコアリーナのトレーニングルーム利用券〈400円/枚〉	17	9	20
ハンドメイド クイーンズバリーの300円割引券〈300円/枚〉	80	53	40
ヤマジ酒店の商品券〈200円/枚〉	40	-	-
月見の野瀬プール・トレーニングルーム利用券〈100円/枚〉	24	35	48
袋井・愛野駅前駐車場利用券〈100円/枚〉	343	278	335
まめやかふえのコーヒー豆100円割引券〈100円/枚〉	48	55	55
リラクゼーション「リーフ」のご利用券〈100円/枚〉	6	9	9
菓子所 五太夫きくやの100円商品券〈100円/枚〉	110	88	84
Good Day Cafeの100円割引券〈100円/枚〉	12	-	19
袋井市スポーツ協会利用補助券〈50円/枚〉	24	50	8
※袋井・浅羽B&G海洋センター・袋井体育センター利用補助券〈50円/枚〉	103	135	92(66)
風見の丘 利用補助券〈50円/枚〉	330	342	-

※ 平成22年度は別々の券であり、袋井・浅羽B&G海洋センター施設利用券は1枚200円。（ ）内は袋井体育センター施設利用券の枚数

研修内容

新ごみ減量大作戦について

1. 掛川市の概要

面積は266平方キロメートル、人口118,022人を有し、静岡県西部に位置し、静岡県の2大都市、静岡市と浜松市の中間に位置しています。

2. ごみの減量に向けた取組みとして

平成17年に掛川市と大東町と大須賀町が合併して新掛川市となり、旧掛川市と菊川市のごみの焼却施設として環境資源ギャラリーがあり、大東町と大須賀町のごみの焼却施設として環境保全センターがあった。しかし、この環境保全センターの閉鎖時期が迫って来たが、環境資源ギャラリーのごみ処理能力(140トン/日)は、旧掛川市と菊川市分のみ処理能力しかない為、大東・大須賀区域分も合同処理する為に、「ごみ減量大作戦!!」に取り組んだ。

掛川市では4Rを推進しており、リデュース：ごみを出さない生活、ごみにしない生活！、リユース：繰り返し使う！、リサイクル：再生資源に戻す！、リフューズ：ごみになりそうなもの、不要なものは手に入れない！だそうです。

3. まとめ

当市がごみ袋の有料化をした時と同じように、掛川市でも3年間ほどはごみが減量して行ったが、その後、増量するという現象が起きているようだ。やはり、この点を考慮して当市でも対策を考えていかなければいけないと思いました。

年度	分別説明会	集積所巡回指導	事業所への分別指導
19 (18)	159回 3,315人 (321回/16,836人)	155地区・758 箇所 6,393人	125社
20	253回 13,225人	153地区・405 箇所 5,192人	177社
21	24回 1,043人	129地区・270 箇所 6,391人	111社
22	15回 674人	147地区・232 箇所 3,413人	53社
23	21回 626人	199地区・638 箇所 2,103人	113社
24	6回 403人	97地区・207 箇所 2,413人	100社

新ごみ減量大作戦推進施策の実施状況 ②

シンボルマーク・キャッチフレーズの公募

【応募作品】

シンボルマーク 応募者15名 19作品



ごみ減量大作戦シンボルマーク

キャッチフレーズ 応募者17名 37作品

「我が家から 手本を示そう ごみ減量」

「もらいません 過剰包装 レジ袋」

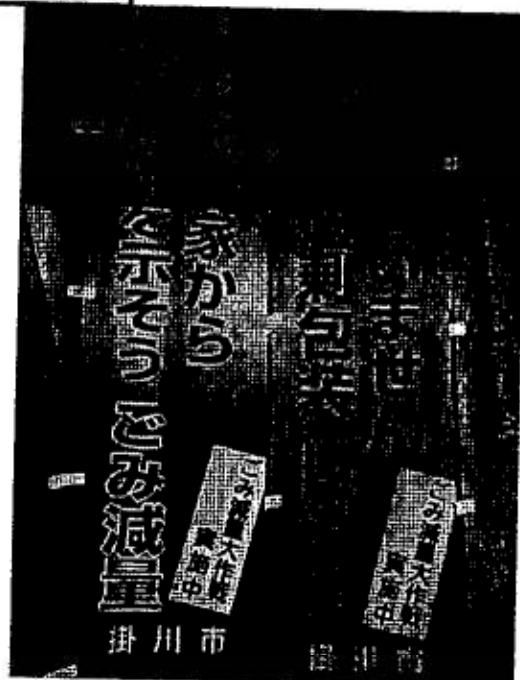
新ごみ減量大作戦推進施策の実施状況 ③

啓発用のぼり旗の作成及び設置

新ごみ減量大作戦の取組を広く市民に周知し、ごみ減量意識の高揚を図るため、啓発用のぼり旗を作成し、市内各所へ設置した。

作成枚数:1000枚

設置箇所:集会所・市役所・集積所等



19

クリーン推進員

毎年約600人の方がクリーン推進員としてボランティアで各地域で活躍されている。

・定数
区及び小区に1人以上

・やっていただいていること

- ①ごみの分別、減量再資源化、排出マナー等に関する啓発指導
- ②市が実施する講習会等への参加
- ③不法投棄、不正出荷等の連絡
- ④その他環境美化施策の推進において必要な事項



20

新ごみ減量大作戦推進施策の実施状況 ④

直接搬入ごみの指導

産業廃棄物及び資源ごみが混入していないか、ごみの分別は正しいかを、廃棄物処理施設で確認する。

一般廃棄物収集運搬許可業者への指導も行う。



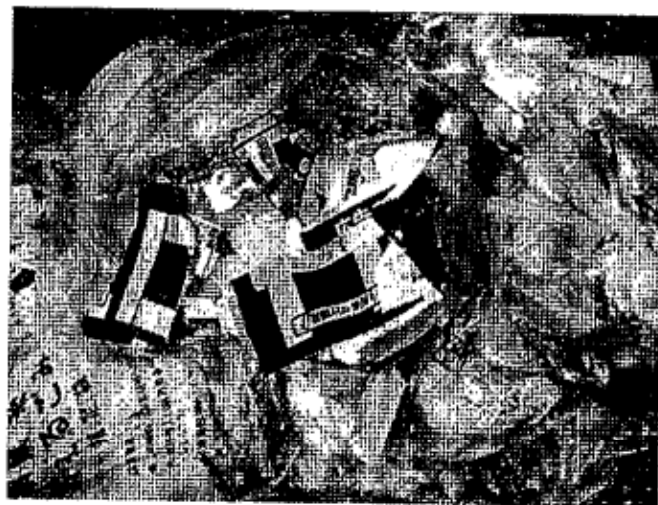
ピットへ投入する前に、
プラットフォームで確認する。

23

新ごみ減量大作戦推進施策の実施状況 ⑤

直接搬入ごみの指導

紙が多く含まれている事業所のごみ



24

新ごみ減量大作戦推進施策の実施状況 ⑥

剪定枝等の再資源化に向けた取り組み

地区の要望によって設置。家庭の敷地内から排出される、普段燃えるごみに出してしまうような少量(5束程度)の枝木を資源として回収する。地区の奉仕作業、自己所有の山林伐採は対象外。



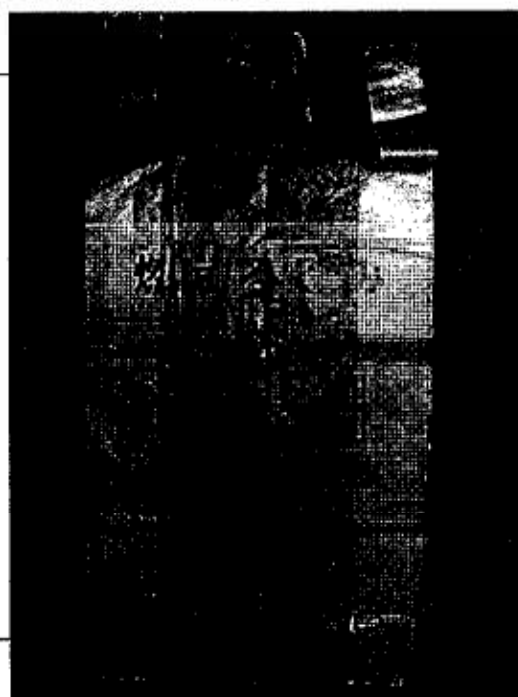
25

年度	回収量
H19年度	594t
H20年度	1,400t
H21年度	1,257t
H22年度	675t
H23年度	649t
H24年度	586t

新ごみ減量大作戦推進施策の実施状況 ⑦

ごみ袋記名制の導入

ごみの分別ができていない袋は、回収されず、地区の役員の方が後始末をするといったことが繰り返されていたため、平成20年1月より指定袋に記名欄を設け、誰が出したのかが特定できるようにした。一部地区(大東・大須賀区域)では以前より実施



30L
20L

26

新ごみ減量大作戦推進施策の実施状況 ⑧

生ごみパックン講習会

平成24年度は市主催で4回実施

参加費:1,000円

1日の処理能力は約1kg

約3日でバクテリアにより水と二酸化炭素に分解される。



生ごみ処理容器「パックン」
内部説明

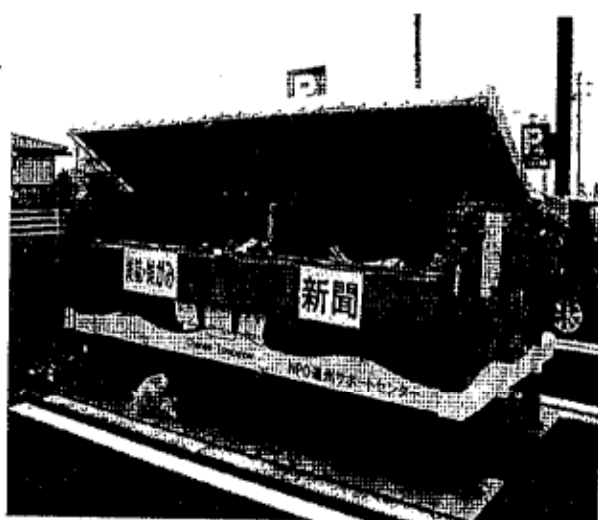
- (生ごみ処理床)
- 杉チップ (ハケ7山盛り2杯)
 - 腐葉土 (ハケ7半分)
 - 堆肥 (ハケ7半分)
 - 鶏糞 (ハケ7半分弱)

※ハケ7容量は10ℓとする

27

新ごみ減量大作戦推進施策の実施状況 ⑨

古紙回収コンテナの設置



平成24年度～行政による
回収は行っていない。

公民館や学校等の公共施設
や量販店の空きスペースを
利用し古紙回収コンテナを
設置している。

現在、市内32箇所に設置さ
れています。

28

委員会行政視察報告書

平成25年10月22日提出

井原市議会議長 宮地俊則 様

報告者

市民福祉委員会

上野安是

期 間	平成25年10月9日（水）～平成25年10月11日（金）
出張先及び 担当職員 職名・氏名	千葉県市原市 議会事務局 渡辺信一議事課長他1名、 公園緑地課 潤間課長他3名、防災課 實初課長他1名 静岡県袋井市 議会 戸塚文彦議長、久永豊彦事務局長、 健康づくり推進課 寺田課長他2名 静岡県掛川市 環境産業委員会 草賀章吉委員長他事務局1名、 環境政策課 志村課長他2名
出張者氏名	坊野公治、荒木謙二、河合謙治、上野安是、佐藤 豊、井口 勇、 平川貴章（議会事務局）
調査項目	防災機能公園としての総合公園及び備蓄倉庫について 健康チャレンジ!!すまいる運動「健康マイレージ制度」について 新ごみ減量大作戦について
◎ 千葉県市原市 <u>防災機能公園としての総合公園及び備蓄倉庫について</u> ・防災機能公園 さまざまな機能 設備 施設を兼ね備え 防災拠点として位置づけられている（防災おどベンチ、防災トイレベンチ、防災東屋など） ・備蓄倉庫 地区備蓄倉庫 42カ所 支援備蓄倉庫 4カ所 （主な備蓄品 食糧 177,996食 飲料水 128,353本×500ml ^{25年}1A現在 ○ 災害時にあけろ 自助、共助、公助を各々がしっかりと理解し 地域の防災力の向上を図っていく必要あり	

1. 報告書は、視察・研修終了後2週間以内に提出してください。
2. スペースが足りない場合は、別途報告資料を添付してください。

⑥ 静岡県袋井市

健康チャレンジ!! しまいる運動「健康マイレージ制度」について

「日本一健康文化都市宣言」 平成'5年 平成'22年



意識して健康づくりをしないと、健康を維持できない時代



健康チャレンジ!! しまいる運動「健康マイレージ制度」

目的

- ・ 健康づくりをしやすい機運の醸成
- ・ 健康づくりの動機付け支援
- ・ 健康的な生活習慣の定着を促す

「健康マイレージ制度」

健康づくりをポイント化し、貯めたポイントを公共施設利用券や民間の登録サービス券と交換、あるいは幼稚園や学校等へのポイント寄付を通じて社会貢献できる制度

- | | |
|----------------------------|----------------------|
| ①「e-しまいる(携帯電話、パソコン)」…メール返信 | 15才以上
(7月~11月) |
| ②「しまいるカード」…市へ(郵送可) | |
| ③「しまいる手帳」…学校へ | 幼・小・中
(6月中旬~7月中旬) |

主体的に取り組める制度として 井原市においても導入する価値のある施策のように感じられた。こういった形で透かしていき、今後も研究していきたい。

① 静岡県掛川市

新ごみ減量大作戦について

- ・ 「環境日だーのまちづくり」を目指す。
- ・ 4Rの推進
マイバック持参率
11
96%
(18/19店舗に袋有料化)
Reduse .. ごみを出さない、ごみにしない
Reuse .. 繰り返し使う
Recycle .. 再生資源に戻す
Refuse .. ごみになるもの、不要なものを手に入れない

ごみ減量に向けた取組み

- ① 分別説明会
- ② シンボルマーク、キャッチフレーズ公募
- ③ 啓発用のぼり旗の作成及び設置
- ④ 直接搬入ごみの指導
- ⑤ 剪定枝等の再資源化に向けた取組み
(平成23年度 649t、平成24年度 586t)
- ⑥ ごみ袋記名制の導入
- ⑦ 生ごみバック講習会
(1日の処理能力は約1kg
約3日でバクテリアにより水と二酸化炭素に分解)
- ⑧ 古紙回収ユニテスの設置 (市内34か所)
- ⑨ 食用油リサイクル事業 (BOF利用)
(年間: 36,900L回収.. 平成24年度実績 7月/1で表却)

人口 10万人以上 50万人未満の部

1人1日当たりのごみの排出量 (掛川市)

平成22年度 642.5g/日・人 <1位>

23年度 653.7g/日・人 <1位>

24年度 651.3g/日・人 <?>

井原市は

平成23年度 761g/日・人 総量は 12.357t/年

1人1日当たりの 燃えごみ量 (掛川市)

平成22年度 505.3g/日・人

23年度 530.2g/日・人

24年度 549.5g/日・人

井原市は

平成23年度 359g/日・人 総量は 5.828t/年

井原においても、数値目標を達成する方法を
市民の方に 明確に 示唆し、ごみ排出量の減量、
ごみ処理費用の軽減化を 推進していく必要がある。

トキエ

委員会行政視察報告書

平成 25 年 10 月 23 日提出

井原市議会議長 宮地俊則 様

報告者

市民福祉委員会 佐 藤 豊

期 間	平成 25 年 10 月 9 日(水)～平成 25 年 10 月 11 日(金)
出張先及び 担当職員 職名・氏名	千葉県市原市 議会事務局 渡辺信一議事課長 1 名 公園緑地課 潤間課長他 3 名、防災課 實靱課長他 1 名 静岡県袋井市 議会 戸塚文彦議長、久長豊彦事務局長 健康づくり推進課 寺田課長他 2 名 静岡県掛川市 環境産業委員会 草賀章吉委員長他事務局 1 名 環境政策化 志村課長他 2 名
出張者氏名	坊野公治 荒木謙二 河合謙治 上野安是 佐藤 豊 井口 勇 平川貴章(議会事務局)
調 査 項 目	防災機能公園としての総合公園及び備蓄倉庫について 健康チャレンジ！！スマイル運動「健康マイレージ制度」について 新ごみ減量大作戦について
1、防災機能公園としての総合公園及び備蓄倉庫について。 1)自然災害発生時時の避難場所の利便性の向上と災害時の備蓄体勢について先進的にとり組んでいる市原市の現状を見聞した。市原市では市内の五井駅東口整備計画を作成し、それに伴う「賑わい創出事業」として、市原市総合公園整備事業を推進中の最中に 3・11 東日本大震災が発生した。その際、市原市の湾岸地域にあるコンビナートでタンクの爆発などによる甚大な被害が発生した。そうした経緯から、湾岸企業より市内の内陸部へ一時避難所整備をとの声が上がったことと、また、地域住民からも総合公園に防災機能を組み込んだ公園整備にしてほしいとの声が高まったことから計画を変更して災害時に対応する公園にしたとのことであった。ベンチは仮設トイレや仮設かまどに、また、太陽光発電を活用した照明灯を設置、さらに園内の休憩所をテントとして利用、柱にはスコップなど防災用具などが収納されていた。 2)公園は屋外施設であることから、あくまでも一時避難場所としてのスタンスであり、最大 1 万人の受け入が可能な避難場所と考えているとのことであった。また、敷地内に有る池を防災用水源として、さらに、公園管理センターを連絡拠点に、イベント広場を物資の搬入・搬出、集積スペースとして活用、そして、駐車場の一角はヘリポートにと用途を決めて整備がされていた。本市は比較的災害が少ない地域ではあるが、今後の公園作りには大変参考になる取り組みと感じた視察であった。	

- 1、 報告書は、視察・研修終了後 2 週間以内に提出ください。
- 2、 スペースが足りない場合は、別途報告資料を添付してください

2) 健康マイレージ！！すまいる運動「健康マイレージ制度」について

日本一の健康文化都市を目指している袋井市は、市民一人ひとりが健康的な生活習慣を身につけることが最重要と考えていることから。健康づくりをしやすい機運の醸成と健康づくりへの動機付けの支援、さらには健康的な生活習慣の定着を促すことを目的した「健康マイレージ」制度を導入されていた。

内容は健康チャレンジ！！すまいる運動期間(7月1日から11月30日)の半年間を実施期間とし、その間の個々の健康づくりの実践記録を報告することにより、実践状況によりポイントが貯まり、貯まったポイントは幼稚園や小学校等に寄付することもでき、各学校備品の購入に活用されていた。また、公共施設の利用や民間の登録サービス券とも交換が可能で、さらに制度の拡充にも取り組まれている現状を伺った。健康寿命日本一を目指す本市としても健康づくりの動機付けに有効な取り組みと感じた。

3) 新ごみ減量作戦について

掛川市では2ヶ所あるごみ焼却施設の1ヶ所の閉鎖時期が迫ったことから、平成25年度までに3段階に分けてごみ減量化の目標を設定しての取り組みがされていた。その取り組みの、1に、新ごみ減量化大作戦の市民への周知。2に、クリーン推進員の育成（研修会や視察研修）の実施。3に、4R(リデュース・リユース・リサイクル・リフューズ)の徹底でありました。

さらには生ごみ処理方法として生ごみパック講習会の開催や市内への古紙回収コンテナ設置や廃食油の回収によるBDF化の推進と活用など、市民の意識啓発を行いながら行政と民間業者そして市民と共同の減量化推進がはかられていた、特にマイバック運動は市民に浸透しているように感じたところである。本市としても大きな課題であるごみ減量化に向けて掛川市の取り組みを参考にしたいと感じた視察であった。

委員会行政視察報告書

平成25年10月24日提出

井原市議会議長 宮地俊則 様

報告者

市民福祉委員会 井 口 勇

期 間	平成25年10月9日（水）～平成25年10月11日（金）
出張先及び 担当職員 職名・氏名	千葉県市原市 議会事務局 渡辺信一議事課長他1名、 公園緑地課 潤間課長他3名、防災課 實籾課長他1名 静岡県袋井市 議会 戸塚文彦議長、久永豊彦事務局長、 健康づくり推進課 寺田課長他2名 静岡県掛川市 環境産業委員会 草賀章吉委員長他事務局1名、 環境政策課 志村課長他2名
出張者氏名	坊野公治、荒木謙二、河合謙治、上野安是、佐藤 豊、井口 勇、 平川貴章（議会事務局）
調査項目	防災機能公園としての総合公園及び備蓄倉庫について 健康チャレンジ!!すまいる運動「健康マイレージ制度」について 新ごみ減量大作戦について
別紙のとおり	

1. 報告書は、視察・研修終了後2週間以内に提出してください。
2. スペースが足りない場合は、別途報告資料を添付してください。

千葉県市原市

防災機能公園としての総合公園及び備蓄倉庫について

市原市総合公園「上総更級（かずささらしな）公園に、かまどベンチや井戸など災害時に役立つ設備を設置している。同公園は市の玄関口となる五井駅前東土地地区画整備事業地内に整備中である。医療救護の活動拠点となる市急病センター、避難所となる勤労会館に隣接することから、同市の防災計画上は広域救助・救護基地や緊急一時避難所に位置づけられている。遊歩道やデッキを整備した1, 5ヘクタールの修景池。憩いの場として、また災害時の水源としての機能も兼ね備えている。芝生公園は1ヘクタールの広さがあり、かまどベンチ、ソーラーLED照明、防災あづまやも設置されている。

まとめ

市原総合公園は、理想的防災機能公園である。

井原市においては、財政規模も異なり、現在ある公園の中で災害時に避難所として役立つ設備、機具と併用できる公園整備また新たな公共施設整備時は、防災非難場所等を考慮した施設整備が必要と感じた。

静岡県袋井市

健康チャレンジ!! すまいる運動「健康マイレージ制度」について

健康づくりに向けた総合的に生活習慣病を予防しようとする取り組みで、市民の健康的な生活習慣病の定着を目指し、健康寿命の延伸を目的とした取組。

日々の健康づくりの実践状況をポイント化し、溜まったポイントを公共施設の利用券や民間の登録サービス券と交換、あるいは市が認定した団体（学校等）へのポイントの寄付により、人づくりやまちづくりに貢献する制度で、健康づくりを核として人と人、人と社会を繋ぎ、人やまちを幸せにするという循環を活力として、日本一健康文化都市を図ろうとしている。

袋井市では、みんなで取り組む健康づくり運動として「健康チャレンジ!! すまいる運動」を進めている。「SMILE」（すまいる）とは、S＝運動 M＝食事 I＝内臓脂肪 L＝生活 E＝楽しむ。平成25年度よりポイント交換メニューに「野菜いっぱいマーク表示店」で利用できる「野菜いっぱい!!共通お食事券」を追加したほか、「eーすまいる」には、健康に役立つ情報が携帯電話やパソコンに配信するサービスも加え、さらに魅力づくりとしている。

まとめ

井原市においては健康寿命日本一を目指して色々な事業をしているなか、袋井市の「健康チャレンジ!! すまいる運動」「健康マイレージ制度」は、健康づくりと人づくり・まちづくりに繋がった取り組みで井原市においても参考にする必要があると感じた。

静岡県掛川市

新ごみ減量大作戦について

掛川市では平成17年9月から平成18年8月までの12か月間のごみの量基準期間として一人一日当たりの燃えるごみの588グラム//人・日。平成22年度は「基準期間から一人一日当たりの燃えるごみの量を14%以上減量する」という目標のもと取組目標を上回る14, 1%の減量を達成し、燃えるごみの量としては505, 1グラム/人・日としている。

平成23年度は、平成22年度と同様の14%以上減量という目標のもと実施したが9, 8%。平成24年度は再度14%以上減量目標にしていたが、6, 5%と減量率の低下が進んでいる。

減量率の低下の主な原因としては、食料品店やコンビニ、大型店舗の進出、また災害や震災による生活パターンの変化などが要因と分析されていた。

掛川市では、減量率が低下するなか、クリーン推進委員（区及び小区に一人以上のボランティア）の設置、分別説明会、集積所巡回指導、事業所への分別指導・廃棄物処理施設持ち込みでの分別確認指導、ごみ袋記名制の導入、生ごみ処理講習会、4R運動の推進・古紙・古布・くつ・かばんの回収は行政から市民・民間回収へとあらゆる手段で燃えるごみの減量に努力されている。

まとめ

掛川市では、燃えるごみの減量に向け高い目標を掲げ減量率が低下するなか、あらゆる施策で大変な努力をしておられた。井原市においても各種条件の違いはあるが、目標を掲げ分別の徹底・古布等の回収に関するパートナーシップ協定（ごみの減量と資源の有効活用）古紙回収コンテナの設置（行政回収から市民・民間回収へ）等々、検討課題と感じた。